

### 第Ⅲ章 現状とまとめ

#### 1. 若葉台の健康状況及び社会活動・地域活動

第Ⅱ章では、若葉台の住民の健康状況や社会活動、地域活動の状況について、2016 横浜市「健康とくらしの調査」の横浜市と旭区の年齢別集計結果との比較を中心に分析を行った。また、横浜市調査で小地域分析を行っている「若葉台地域ケアプラザ」周辺地域が本調査の対象地域と合致することから、「若葉台地域ケアプラザ」周辺地域の横浜市及び旭区におけるランキングによる分析も行った。本章では、上記分析から明らかになった若葉台の現状をまとめたうえで、その特性について述べる。なお、分析の詳細は「第Ⅱ章 調査結果の概要」の該当ページを参照してほしい。

##### (1) 住民の健康状況

本調査で「現在の健康状態がよい(計)」<sup>6</sup>と答えた割合、「普段の生活で介護・介助が必要ない」と答えた割合は、いずれの年齢層も若葉台が横浜市、旭区より高かった。それを裏付けるように、「虚弱者割合」、「1年間の転倒あり割合」、「閉じこもり者割合」、「うつ割合」、「認知症リスク者割合」の地域診断項目と、「1日30分以上歩く」と答えた割合が、すべての年齢層で若葉台の値が横浜市、旭区より良い結果であった。また、「運動機能低下者割合」、「口腔機能低下者割合」、「要介護リスク者割合」も、ほとんどの年齢層で横浜市、旭区より若葉台の値が良いことがわかった。

##### ○若葉台が【全般的】に良い結果であった項目

○現在の健康状態がよい(計) ○普段の生活で介護・介助が必要ない ○虚弱者割合 ○1年間の転倒あり割合	○閉じこもり者割合 ○うつ割合 ○認知症リスク者割合 ○1日30分以上歩く	非常に多岐に亘る
--	--	----------

(参考) 年齢別で横浜市及び旭区と10ポイント以上の差がみられた項目(括弧内は若葉台の数値)

年齢	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	特色
普段の生活で介護・介助が必要ない				(88.2) 区+10.7		特に若葉台の75歳以上の心身の健康状況で良い結果が見られる
うつ割合			(18.8) 区+12.6			
要介護リスク者割合			(18.8) 区+12.9	(70.5) 市+13.0 区+14.3		
認知症リスク者割合				(20.3) 区+11.1	(23.3) 市+10.7	
1日30分以上歩く					(70.9) 市+12.4 区+11.8	若葉台の85歳以上の高齢者が家に閉じこもることなく、積極的に外出している

80歳以上における心身の健康の維持は、80歳未満における活動状況が影響しており、次に述べる積極的な社会活動や地域活動、地域のつながりの強さが若葉台の住民の心身の健康を支えていると考えられる。

また、横浜市調査における「要介護リスク」に関する10の地域診断項目のランキングでも、若葉台は6項目が横浜市の10位以内(138地域中)、6項目が旭区の1位(12地域中)となり、若葉台の住民が心身

<sup>6</sup> 調査項目名の最後に「(計)」とあるものは、複数の選択肢を合わせた小計であることを意味している。小計の内容は「第Ⅱ章 調査結果の概要」の該当ページで説明している。

共に健康である実態が示された。

## (2) 社会活動や地域活動の状況

本調査で「趣味がある」と答えた割合や、「活動グループの運営に関わっている(計)」と答えた割合、「地域住民のグループ活動に企画・運営として参加意向あり(計)」と答えた割合、「地域住民のグループ活動に参加者として参加意向あり(計)」と答えた割合、「サロン活動へ参加している(計)」と答えた割合は、すべての年齢層で若葉台が横浜市、旭区より高かった。また、地域診断項目のうち「スポーツの会参加者割合」と「ボランティア参加者割合」は、すべての年齢層において若葉台の値が横浜市、旭区より高く、「趣味の会参加者割合」、「学習・教養サークル参加者割合」も、75歳以上で若葉台が最も高かった。

○若葉台が【全般的】に良い結果であった項目(一部は括弧書きで特記)

<ul style="list-style-type: none"> <li>○趣味がある</li> <li>○活動グループの運営に関わっている(計)</li> <li>○地域住民のグループ活動に企画・運営として参加意向あり(計)</li> <li>○地域住民のグループ活動に参加者として参加意向あり(計)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○サロン活動へ参加している(計)</li> <li>○スポーツの会参加者割合</li> <li>○ボランティア参加者割合</li> <li>○趣味の会参加者割合(75歳以上)</li> <li>○学習・教養サークル参加者割合(75歳以上)</li> </ul>	非常に多岐に亘る
--	---	----------

(参考) 年齢別で横浜市及び旭区と10ポイント以上の差がみられた項目(括弧内は若葉台の数値)

年齢	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	特色
趣味の会参加者割合					(45.6) 市+17.1 区+14.7	他の年齢層でも若葉台の高さが顕著である
スポーツの会参加者割合	(42.7) 市+11.0 区+13.4			(34.2) 区+12.2	(29.1) 市+12.4 区+10.9	
ボランティア参加者割合			(29.2) 市+12.2 区+13.2			
地域住民のグループ活動に企画・運営として参加意向あり(計)					(30.1) 区+10.1	より高い年齢層で若葉台の高さが際立っている
地域住民のグループ活動に参加者として参加意向あり(計)				(59.1) 区+11.5	(46.6) 市+11.4 区+13.9	
サロン活動へ参加している(計)		(25.5) 市+10.0	(30.9) 市+10.7	(43.5) 市+23.0	(33.0) 市+15.6	幅広い層で若葉台の高さが際立っている
趣味がある				(89.9) 区+11.9		

(該当者が少ないため分析しなかった旭区の項目は省略した)

これらの結果から、若葉台の住民の多くがグループ活動やサロン活動に積極的に参加し、また、グループ活動の企画・運営にも携わるなど、横浜市及び旭区の中でも社会活動や地域活動が、特に活発な地域であることが明らかになった。

それを裏付けるように、横浜市調査における「社会参加」の5つの地域診断項目のランキングでも、若葉台は3項目が横浜市の3位以内(「スポーツの会参加者割合」は1位、「趣味の会参加者割合」は2位、「特技や経験を他者に伝える活動参加者割合」は3位)、同項目は旭区で1位、他の2項目も横浜市内で15位以内、旭区内で2位となり、横浜市内でも有数の「社会参加」の活発な地域であることが示された。また、「特技や経験を他者に伝える活動」は、他者への貢献や社会に役に立つという生きがいに繋がる活動であり、注

目される。

なお、地域診断項目の中で「就労していない者の割合」に関しては、本調査でも「就労」の地域診断項目のランキングでも、若葉台が横浜市、旭区に比べて高くなっていた。これは、若葉台の住民は自営業が少なく、被雇用者として働いていた人が多いためだと考えられるが、若葉台で高齢者の社会活動や地域活動が盛んであるのは、時間にゆとりがある高齢者が多いことも理由の1つに挙げられる可能性がある。

### (3) 家族や地域とのつながり、社会的ネットワークの状況

本調査で、「この1か月間、10人以上の友人・知人と会った」と答えた割合、「地域の人々は信用できる(計)」と答えた割合、「地域の人々は、他の人の役に立とうと思う(計)」と答えた割合、「住んでいる地域に愛着がある(計)」と答えた割合、「過去3年間に地域の避難訓練などに参加した」と答えた割合、「地域の人々から大切にされ、地域の一員となっていると思う(計)」と答えた割合、「地域のものごとの決定に参加していると思う(計)」と答えた割合は、すべての年齢層で若葉台が横浜市、旭区より高かった。

「地域の人々は信用できるか」は、すべての年齢層で8割前後が「信頼できる(計)」と答え、横浜市、旭区を大きく上回っている。

また、「地域の人々は、他の人の役に立とうと思う(計)」は若葉台ではすべての年代で7割前後が回答し、「住んでいる地域に愛着がある(計)」も若葉台ではすべての年齢層で約9割が回答している。

さらに、「地域の避難訓練に参加した」割合、「地域のものごとの決定に参加していると思う(計)」割合は、すべての年齢層で横浜市を大きく上回っている。

○若葉台が【全般的】に良い結果であった項目 (一部は括弧書きで特記)

○この1か月間、10人以上の友人・知人と会った	○過去3年間に地域の避難訓練などに参加した	すべての年齢層で若葉台が横浜市、旭区より高かった
○地域の人々は信用できる(計)	○地域の人々から大切にされ、地域の一員となっていると思う(計)	非常に多岐に亘る
○地域の人々は、他の人の役に立とうと思う(計)	○地域のものごとの決定に参加していると思う(計)	
○住んでいる地域に愛着がある(計)		

(参考) 年齢別で横浜市及び旭区と 10 ポイント以上の差がみられた項目 (括弧内は若葉台の数値)

年齢	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	特色
この1か月間、何人の友人・知人と会ったか 「10人以上」				(38.0) 区+16.5	(30.1) 市+10.8 区+10.1	すべての年齢層で若葉台の高さが際立っている
地域の人々は信用できるか	(81.9) 市+13.8 区+13.2	(78.4) 市10.2	(78.6) 市+11.0 区+11.2	(81.4) 市+13.6 区+16.5	(80.6) 市+11.8 区+15.1	
地域の人々は、他の人の役に立とうと思う (計)	(71.2) 市+19.2 区+17.0	(66.4) 市+14.0	(67.9) 市+15.8 区+18.7	(70.0) 市+14.9 区+16.1	(72.8) 市+15.6 区+20.1	
住んでいる地域に愛着がある (計)	(89.1) 市+12.6 区+11.0		(88.4) 区+14.6		(86.4) 区+13.7	
地域の人々から大切にされ、地域の一員となっていると思う (計)				(48.5) 市+11.5	(55.3) 市+16.8	すべての年齢層で市に対して高くなっている。
地域の避難訓練に参加した	(64.5) 市+28.9	(69.6) 市+25.9	(73.8) 市+34.0	(68.4) 市+30.1	(69.9) 市+42.3	すべての年齢層で市に対して大きく上回っている。
地域のものごとの決定に参加していると思う (計)	(44.6) 市+17.5	(50.3) 市+15.6	(53.1) 市+18.0	(57.0) 市+20.4	(55.3) 市+25.2	

(該当者が少ないため分析しなかった旭区の項目は省略した)

これらの調査結果から、若葉台の住民は、地域の人々への信頼感が高く、地域住民がお互いに助け合い尊重しあい、また、地域の一員としての帰属意識や自分の所属する地域への主体的な参画意識が高く、地域に愛着を持っていることが明らかになった。

また、「よく会う友人・知人」では「趣味や関心が同じ友人」や「仕事での同僚・元同僚」、「ボランティアなどの活動での友人」と答えた割合が横浜市、旭区に比べて若葉台が高かった。さらに、「困ったときに相談できる窓口」で「近隣・住人」と答えた割合もすべての年齢層で若葉台が高く、近所づきあいが非常に緊密であることが示された。地域のつながりが希薄になっていると指摘される現代で、若葉台のつながり、社会的ネットワークの高さは注目に値する。

なお、横浜市調査における「社会的ネットワーク」地域診断項目の「友人知人と会う頻度が高い者の割合」のランキングも、若葉台は横浜市で3位、旭区内で1位であり、若葉台が横浜市の中でも特に社会的交流が活発な地域であることが示された。

#### (4) 若葉台住民の日常生活

本調査では、横浜市調査の質問項目に加えて、「よく外出する外出先」、「若葉台団地内にもっとあって欲しい施設」なども聞いた。「よく外出する外出先」では、日常生活に必要なものを手に入れるための「スーパー」が団地内外ともに高かったが、団地内と団地外で比較すると、概ね年齢が高くなるとともに団地外への外出が減り、団地内での行動が増える傾向がみられた。例えば、65～69歳以上と85歳以上を比べると「スーパー (団地外)」や「飲食店 (団地外)」と答えた割合は10ポイント以上下がる一方で、「スーパー (団地内)」や「個人商店 (団地内)」は下がることなく、「飲食店 (団地内)」や「理美容室 (団地内)」は上昇している。今後ますます高齢化が進むことで、遠出ができなくなる住民が多くなることが予想される。生活上必要な施設が団地内に揃っていることが、安心して暮らせるまちの条件となる。

そこで、「若葉台団地内にもっとあって欲しい施設」を聞いたところ、「飲食店」と「個人商店」を挙げる

人が3割を超えていた。「公共施設」や「趣味の活動拠点」、「スーパー」がそれぞれ1割半ばであったのに比べると、倍以上の声が寄せられたことになる。このことから、日常生活に必要な施設はある程度揃っているが、ちょっとした外食や買い物ができる店舗、もしくは、個人の好みで選ばれる店舗が要望されている可能性がある。

また、趣味の活動をする場所のうち、散歩・ジョギングや写真撮影、体操・太極拳などを楽しむ場は、団地内に十分な環境が整っているようである。一方、カラオケは団地内より団地外と答える住民が多かった。今後カラオケの場を団地内に作れば、住民が利用する可能性がある。

## 2. 総評

### (1) 若葉台団地の成り立ちと開発理念

横浜市の北西部郊外に位置する「若葉台団地」は、昭和40年代後半から90haもの広大な山林や農地を有する丘陵地を開発した大規模な郊外型新市街地として計画・事業化され、昭和54年から入居が開始している。その開発理念は、元の自然地形や環境を極力活かすことで「人と自然の調和の取れた豊かな住み良い街」にするとともに、将来のライフスタイルに対応するため、様々なレクリエーション施設を計画的に配置するといった斬新なものであった。

このように新規に開発された若葉台団地では、住民の生活が始まった当初から、段階的開発の初期であることにより生じる生活上の不便を解消することやフロンティア意識によりコミュニティの醸成、結束力の強化が培われ、住民同士の交流を目的とした様々な地域活動が自然発生的に生まれ現在まで拡充しながら続けられている。これは、若葉台が周辺の市街地から独立し単独の市街地として機能しうるコンパクトシティ型の住宅団地であることや、計画的な開発により比較的入居時期が近い年齢層が集積していたことによるものと思われる。

### (2) 外出しやすく、スポーツ施設などが充実した環境

団地内は、自動車と人の動線を完全に分離し、さらには歩行者と自転車の動線さえも分離した専用道路が全体に巡らされており、安全に移動することができる。また、テニス、水泳、野球など様々なスポーツ施設が充実していることに加え、これらを利用するために必要な運営組織（NPO法人若葉台スポーツ・文化クラブなど）が住民によりマネジメントされていることで、利用者ニーズに合った使われ方が実現している。その結果、利用実績は年間20万人近くに上るなど、住民の心と身体の健康を支える大きな柱となっている。

これは、本調査結果においても横浜市、旭区に比べて**社会参加割合**が非常に高くなっていることで裏付けられている。こうした外出しやすい環境やスポーツをはじめとした様々な活動に取り組みやすい環境、選択肢の豊富さが、社会活動や地域活動に積極的に参加させる要因になっていると考えられる。

### (3) 自治会活動を通じた、世代を超えた絆の形成

若葉台に10ある自治会を束ねる連合自治会を中心とした住民の自治活動は、子供達から高齢者に至るまでの全世代を住民全体で見守ろうとする様々な取り組みや、祭りなどのイベントで住民同士が交流し、コミュニケーションをとる土台、舞台づくりを行っており、管理組合協議会など他の住民組織と有機的に連携することで層の厚い取組みとなっている。

さらには、人口減少、少子高齢化が急速に進む若葉台団地にあって、高齢者の見守りや居場所づくり、さらには若い母親や子供たちの孤立を防ぎ、多世代が交流する居場所づくりに取組むNPO法人の存在など、

人と人が触れ合い、住民どうしで支えあう機能が団地内に多く存在する強みは他の地域ではなかなか見られないものである。

本調査でも、「**地域住民のグループ活動に企画・運営として参加したいか**」、「**地域の人々は信用できるか**」、「**地域の人々は、他の人の役に立とうと思うか**」、「**住んでいる地域に愛着があるか**」「**地域の人々から大切にされ、地域の一員となっていると感じるか**」、「**地域のものごとの決定に参加しているか**」などの項目で類を見ないほどの高い割合が結果として表れており、住民が地域を愛し主体的に地域に関わろうとする姿勢や、それを可能にする住民同士の信頼感や絆があることが確認された。

#### (4) 若葉台の取り組みが、住民の健康状態に表れた成果

前述の団地の環境、施設などのハード面とこれらを活かしながら、運動などフィジカル面の健康づくりを行うだけでなく、人と人のコミュニケーション（住民間のつながり）を無数に広げている活発な地域住民活動が、住民の健康の鍵であり、高齢化率 46.0%という、全国、横浜市内でも屈指の高齢化が進むエリアでありながら、要介護認定率が 11.6%という相反する結果に結びついているものと考えられる。また、地域における人々の信頼関係や結びつき、社会活動や地域活動の状況はソーシャルキャピタル（社会関係資本）<sup>7</sup>を構成する要素と考えられており、ソーシャルキャピタルが豊かな地域ほど、人々のつながりが強くなり協調行動が活発になって、治安、経済、健康、幸福感などへ良い影響があり、社会の効率性が高まるといわれている。まさに本調査で明らかになった若葉台の高いソーシャルキャピタルが、住民の健康に良い結果をもたらしているといっても過言ではない。

こうした若葉台の豊かなソーシャルキャピタルと健康維持との関連は、日本老年学的評価研究（JAGES）の知見として、「**スポーツや趣味、町内会、ボランティアなどへの参加が要介護リスクを下げ体を健康にする**」「**人とのつながりが心理的・社会的なストレスを軽減する**」、「**他者との交流や活発な社会活動参加が認知症リスクを下げる**」、「**健康に長生きする秘訣は積極的に人と会うこと**」、「**人の絆が強い地域に住むと介護予防になる**」、「**生きがい健康長寿につながる**」などと指摘されていることと矛盾していない。また、平成 19 年度内閣府国民生活白書でも、「**つながりは精神的やすらぎをもたらす**」、「**つながりは生活満足度を高める**」ことが指摘されているが、これも若葉台にあてはまることであり、若葉台の取り組みは、健康長寿社会の実現という日本全国が抱える課題に対して強い示唆を与えるものとなっている。

#### (5) 調査の振り返りと今後の課題

本調査によって若葉台での要介護認定率の低さと、地域における様々な活動の関連性が浮かび上がった。

本調査の方法としては、全住戸に投函し、65 歳以上で最も早く誕生日が来る人に調査を依頼したが、無作為抽出で行われた横浜市調査とでは、男女比や年齢構成、一部の調査結果で違いが生じた。しかし、年齢別の分析を行うことにより若葉台の姿が概ね正しく浮き彫りになったと考える。

また、調査結果からは、「**就労していない者の割合**」が横浜市、旭区に比べて高かったことから、仕事を退職した後の孤立化をどう防ぐかが、若葉台の課題として浮かび上がった。これに対して、若葉台には社会活動や地域活動が盛んであるという、入居開始当初からの積み重ねがある。会社を退職した後も、スポーツ、文化、地域互助など様々な地域活動を通して、社会とのつながりを継続できる環境があることは、若葉台の大きな強みであり、継続した取り組みが求められよう。

高齢化が進む地域であっても、若葉台で行われている取り組みを参考に地域の実情や特性を考慮し、様々

<sup>7</sup> 社会・地域における人々の信頼関係や結びつき、規範、ネットワークなどの社会組織の重要性を表す概念。

な取り組みを行えば、高齢者が元気に暮らせる地域となることが期待される。しかし、若葉台のこの結果が表れるには長い年月に亘る継続した取り組みの積み重ねがあったことは言うまでもない。

今後は、現在の取り組みの継続また更なる充実に向け住民、行政、民間などとの連携をより強化するとともに、各データの検証を継続し、結果をフィードバックすることで若葉台の取り組みをさらに発展させるための一助とすべきであると考えている。